

MMS 研究会 2003 年度第 2 回幹事会議事録

日時：2003 年 10 月 16 日（水） 14 時～17 時

場所：インダストリアルホール（東京都千代田区神田）

出席者：浅野，林，本間，松元，齋藤，浜田，大山，中嶋，宇野，山影

祖父尼，菊池（土川基金運営委員会）

（欠席：森田，兵庫，若田，田中，矢嶋），（順不同，敬称略）

議題

1. 44 回 MMS 定例会のプログラムについて

- 1) 浅野会長より，44 回定例会に関して現在までに議論されたことを踏まえて，以下のような総括説明がなされた。
 - ・日時：2003 年 11 月 26 日 18 時 30 分～20 時 15 分
（定例会終了後は土川夫人を囲んでの懇親会，10 時まで）
 - ・場所：アスト津 4 階 アストプラザ
 - ・プログラム内容としては，総会，土川夫人への感謝状贈呈，土川基金受贈者による発表を予定．
 - ・1995 年～2002 年までの受贈テーマ数 16 題，受贈者数 11 名，10 月 16 日現在発表承諾者 8 名．
- 2) 菊池先生・祖父尼先生より，去る 10 月 5 日に行われた土川先生の法要について説明があり，土川夫人の健康上の問題は特にないと報告がなされた．また，MMS 研究会の名前で献花して下さったとのこと．
- 3) 最終的な決議事項は以下の通り．
 - ・総会および感謝状贈呈式を約 15 分とし，残りを発表会にあてる．
 - ・総会は，庶務報告と共同研究報告とする．
 - ・共同研究（肝小核，皮膚小核，ヒト細胞，トキシコジェノミックス）については JEMS 本大会で詳細は発表されるので，定例会での報告は JEMS での発表に替える．総会ではスライド 1 枚で紹介するにとどめる．
 - ・感謝状を作成するが，文面は会長に一任する．副賞については，検討事項としメイリングリスト等で議論する．
 - ・受贈者の発表は原則全員とし，演者 1 名につきスライド 6～8 枚，6～7 分で分かりやすい発表をお願いする．
 - ・参加未定の 3 名については，至急確認とる（20 日現在：1 名参加、1 名不参加、1 名未定）．
 - ・発表の順番は受贈年順とする．
 - ・時間的な制約があることから，スムーズな進行を行うために，スライドを事前に提出して頂く．

2. 定例会終了後の懇親会について

- 1) 会長より，以下のような説明がなされた．

- ・ 場所：ホテルグリーンパーク津（MMS 定例会会場と同じビル内）
 - ・ 時間：20 時 30 分～22 時
 - ・ ビュッフェ形式
- 2) 最終的な決議事項は以下の通り．
- ・ 参加人数を把握するために，庶務幹事が早急にメールで出欠の確認を行う．
 - ・ 土川基金運営委員会メンバーの参加についても確認して頂く．
 - ・ 招待者は土川夫人のみとする．
 - ・ 参加費は 5000 円とする（不足する場合は本会から補充）．
 - ・ 司会は菊池会員と島田会員にお願いする．
 - ・ プログラムとしては，受贈者代表挨拶として渋谷会員ないし佐々木会員，乾杯の音頭を祖父尼会員にお願いする．
 - ・ 島田会員の出欠については，会長が確認する．（20 日現在調整中）

3．45 回 MMS 定例会について

- 1) 第 1 回幹事会のあとのメールによる協議により，次回の開催はヤクルト株式会社の大山会員に世話人をお願いし，ヤクルト伊東研修センター（静岡県伊東市）で開催することを満場一致で了承した．
- 2) 以下のような意見が出された．
- ・ いつも時期が悪く天候がよくないので，開催時期を変えてはどうか．
 - ・ もう少し楽しみながら，ゆとりのあるプログラムでもいいのではないか．
 - ・ 会員が重なっているケースが多いと思われるので，BML との統合を検討してもいいのではないか．
- 3) 以上の議論を考慮し，以下のような決議がなされた．
- ・ 今回は時期を早め，5 月 14 日（金），15 日（土）を第一候補とし，6 月 11 日（金），12 日（土）を第二候補とする．
 - ・ 参加費 4000 円，宿泊費 7000 円程度の予定で行う．
 - ・ プログラムは共同研究中心で行うのが MMS の特色である．具体的内容については次の議題であるコメントに関する共同研究も視野に入れて，検討事項とする．

4．コメントアッセイ大規模共同研究について

- 1) 大規模共同研究の提案に関して，趣旨説明が林幹事よりなされた．引き続き，コメントアッセイについての問題点及び共同研究の必要性について以下のような議論が行われた．
- ・ 施設間で結果が異なるケースが多く見られる．
 - ・ 非変異のグループで，すでに小規模の共同研究の例はあるが，その結果では大きな差は見られなかった．
 - ・ 解析方法や実験方法が，施設により異なりそれらの検討が十分に行われずに試験が実施されているのが実状である．
 - ・ 遺伝毒性化合物が DNA 損傷を引き起こすのはわかるが，なぜコメントにみられるような多くの低分子 DNA 断片ができるのか，その生成機構がよく分からない．
 - ・ 細胞損傷と DNA ダメージの区別が困難．

- ・ In vitro 小核と mutation を誘発する濃度範囲はほぼ一致するが、それらの濃度範囲とコメットの濃度範囲が合わないケースが多い。それは、80%生存率で検出しているので感度が高いと言われている。しかし、in vivo でどのように生存率をはかるのか分からない。
 - ・ 標本内で陽性となっている細胞の分布にかなりバラツキがあるのに、25 細胞程度の少数で評価している。
 - ・ 泳動条件によってもパターンがことなる。
 - ・ このように、様々な議論すべきテーマ、問題点が残されている。しかし、組織を選ばない、RI を使わない、簡便であるというメリットから、欧米では試験実施を積極的に推し進めている。実際に最初のスクリーニング試験として実施する施設もある。これほど多数の報告や研修会が行われているにもかかわらず、評価に耐えうる大規模なバリデーションがなされていない。
- 2) 以上の議論を踏まえ、MMS として共同研究を実施することが了承された。今後の共同研究としては以下の点を考慮することとした。
- ・ この共同研究の世話人は幹事会が努める。
 - ・ 参加しやすい共同研究にするため、また早期実績達成のためにも、実験を担当する技術部会とデータの解析などを担当する評価部会を設ける(詳細は今後詰める)。
 - ・ 共同研究のステップとしては、基礎に関する勉強会を開催し、in vitro での確認、in vivo への応用という段階を経てはいかがか。
 - ・ 早期(出来れば年内)に、プレーストーミング形式の参加希望者会議を開催し、問題点や疑問点を議論する。

以上

文責 山影康次

日本環境変異原学会MMS研究会 第44回定例会プログラム



日 時: 2003年11月26日(水) 18:30 ~ 20:30
(JEMS初日プログラム終了後、直ちに移動願います)

場 所: アスト津 4階 アストプラザ
近鉄・JR「津駅」下車、東改札口を出て左へ徒歩1分
Phone: 059-222-2525

参加費: 無 料

プログラム

1) 総 会

庶務連絡

共同研究概要説明 (スライド 1~2 枚)

(肝小核、精巢小核、皮膚小核、ヒト細胞、トキシコジェノミックス)

2) 土川 琴代 夫人へ感謝状授与

3) 土川先生メモリアルイベント

~ 土川基金が生んだ研究成果 ~

1. 佐々木 有 先生
2. 降 旗 千 恵 先生
3. 立 野 祐 幸 先生
4. 浜 田 修 一 先生
5. 原 巧 先生
6. 浅 野 哲 秀 先生
7. 松 元 郷 六 先生
8. 藤 川 和 男 先生
9. 鈴 木 孝 昌 先生

懇親会 (定例会終了後直ちに移動願います)

場 所: ホテルグリーンパーク 津(MMS定例会と同じビル内です)

会 費: 7000 円